

ニーズを先取りする確かな提案力で総合的な物流事業を展開

三糧輸送株式会社 三重県名張市

今年で会社設立 75 周年を迎える三糧輸送株式会社は、顧客に感動を呼び起こすオンリーワンのサービス提供に努めている。“物流事業は運送業からサービス業への転換が求められている”と早くから認識し、自社の倉庫と物流機能を駆使してサプライチェーンマネジメント改革の一翼を担い、顧客に物流の最適化を提案、様々なニーズや課題に応え続けてきた。その確かな提案力と堅実な仕事ぶりで信用を積み重ね、現在では大手メーカーなど約 80 社の企業が同社の物流システムを利用している。

同社は、安定的な人材確保のため、全営業所で「働きやすい職場認証制度」二つ星の認証を取得し、より働きやすい職場環境改善の実現にも積極的に取り組んでいる。

今後においても、多様化する顧客のニーズを先取りして新しい物流システムを提案し、社会の発展に貢献し続けていく。

会社概要



会社名：三糧輸送株式会社
 所在地：三重県名張市東田原字頭界 2551-2 番地
 本社：三重県四日市市曙町 7 番 7 号
 電話：059-351-2311
 FAX：059-351-2313
 設立：1949（昭和 24）年 11 月
 代表者：代表取締役 川北 正
 資本金：1,000 万円
 従業員：106 名
 事業内容：一般貨物自動車運送事業、自動車運送取扱事業、倉庫業等
 URL：<https://www.sanryou.co.jp/>

輸送を通じて物・人・心をつなぐ

三重県四日市市に本拠を構える三糧輸送株式会社は、1949 年 11 月に食糧配給公団三重県支局から貨物自動車の譲渡を受けて発足した。現社長の川北正氏は、異業種から身を転じて 1990 年 3 月に入社し、名張営業所を振り出しに、トラックドライバー、倉庫内での作業、配車業務など、何でも覚えようと目の前の仕事に懸命に取り組んだ。当時は“荷物を届けさえすればよい”という風潮が根強く、慢性的に会社よりドライバーの方が発言力が強い運送業界を独特な世界だと感じていた。その後は拠点拡大のため、土地の取得や倉庫建築の手配などの事業企画にも従事し、2005 年 9 月、代表取締役役に就任した。



同社で敷地面積最大を誇る名張営業所と倉庫の様子

運送業からサービス業への転換

同社の業績は、1971 年、大手タイヤメーカーの系列会社から自動車用シートパッド、産業用化成品、ウレタン、工業用品などの輸送業務を請け負ったことを境に大きな飛躍を遂げた。

2003 年には取引先に運送業者を選別する動きがあり、他の新しい顧客を探していたところ、ペット用品のメーカーや住宅外壁用の資材メーカーとの取引が始まった。幾度となく見積書の提出を強いられ、もう採用されないのではないかと諦めかけたこともあったが、努力が実り契約を交わすことができた。厳しい値下げ要請を受けることも珍



創立 70 周年を記念して制作されたイメージキャラクター『こころちゃん』

しくなく、その度に、仕事がなくなるという危機感是非常に強いものがあったが、顧客が求めているものを真剣に考える契機となり、「もう“運送屋”とは呼ばれたくない。将来を見据えて“サービス業”に生まれ変わろう」と固く心に誓った。

このまま荷主に依存し続ける道を選ぶか、独自に生き残りを模索する道を選ぶかの瀬戸際で、自社の敷地内に取引先の在庫保管用倉庫を建築するという、攻めの一手に出た。倉庫を設けて取引先の荷物や商品を預かれば、それらの運送に関して主導権を握ることができ、競合他社との差別化を図ることができる。取引先も同社の倉庫を活用することで、自社スペースが在庫で手狭になることなく製造に専念することが可能になり、競争力が高まっていく。「物流と無関係でいられる企業はない。我々運送業者は荷主企業とタッグを組んで、経営戦略の立案にまで関与することが求められている。

一つひとつ信用を積み重ねることが、会社への信頼につながっていく」と川北社長は手応えを感じている。



三重県津市にある・あつ台営業所

「2024年問題」にも積極的に対応

「物流の2024年問題（2024年4月から時間外労働時間の上限規制が適用されることで発生する諸問題の総称）」については、物流コンサルタント、社会保険労務士、弁護士などを交えて自社の労働環境の現状を精緻に調査した結果、十分に対応可能であることがわかった。輸送能力の維持には、ドライバーをはじめ人手の確保や処遇の向上が不可欠であるが、取引先に運賃値上げの必要性を真摯に訴えて理解を求め、長年の課題であった適正運賃の確保に取り組んでいる。

かつてはドライバーが入社と退職を繰り返し、なかなか定着しない時代があったが、安定的な人

材確保のためにも、社員の健康管理には特に注意を払っている。健康診断受診後の再検査にかかる費用を一部会社負担とし、全営業所で「働きやすい職場認証制度」の二つ星を取得するなど、職場環境の改善に積極的に取り組んでいる。「環境改善への取り組みが、自社の仕事内容の可視化につながるという大きなメリットもあり、いずれは三つ星の取得にもチャレンジしていきたい。今でも採用には苦労が尽きないが、できるだけ地元の人材を獲得していきたい」と川北社長は熱く語る。



定期的に行われる安全講習会で安全意識を高める（左）
全営業所で「働きやすい職場認証制度」二つ星を認証取得（右）

“いい会社”であり続けるために

同社では管理職世代の育成にも余念がなく、営業所長会議を毎月開催して意思の疎通を図っている。川北社長も普段から積極的に社員とのコミュニケーションを図り、自社の経営理念の浸透に努めていることで、社員にも“自分のことを気にかけてくれている”という実感が生まれ、仕事の励みにつながっている。社員がみな同じ服装を着用して挨拶や礼儀を実践し、普段使用している車両などをきれいに保つことで初めて顧客に認められ、自社の存在感が高まっていく。「新しい契約を獲得できた時は非常に嬉しいが、リピーターになってもらうには、また利用したいと思われる何かを提供し続けなければならない。業績好調でブランド力のある会社は“良い会社”であるといえるが、どこか数値偏重の経営になるおそれがある。お客様に満足してもらえる仕事を追い求め、漠然とした言い方であるが、これからも“いい会社”でありたい」と語る川北社長の思いは、どこまでも意欲的である。（大橋徹、藤岡奨太）